

## 平成28年度第1回西三河南部東圏域保健医療福祉推進会議録

1 日 時 平成28年8月9日（火）午後1時30分から午後2時15分まで

2 場 所 西三河総合庁舎 7階会議室701

3 出席者 別添出席者名簿のとおり

4 傍聴人 なし

5 議 題 介護保険施設等の整備承認について

6 報 告 地域包括ケアモデル事業について

7 会議の内容

(1) あいさつ（愛知県西尾保健所長）

(2) 議長の選出について

委員の互選により、小森委員が議長に選出された。

(3) 会議の公開・非公開について

開催要領第5条第1項に基づき、全て公開とした。

(4) 議題

ア 介護保険施設等の整備承認について

(ア) 事務局説明

愛知県西三河福祉相談センター矢田次長から、資料1、2に基づき、説明を行った。

(イ) 質疑応答

**議長（小森岡崎市医師会長）**

必要利用定員総数は何に基づいて算出されるのですか。

**事務局（矢田西三河福祉相談センター次長）**

岡崎市において、平成27年度から平成29年度の第6期に2,400人の認定者の増加が見込まれるのですが、その中で混合型特定施設の入所希望者がどれくらい出るかを推計したものです。

**議長（小森岡崎市医師会長）**

推計の元になる計算式があるのですか。

### 事務局（神尾岡崎市介護サービス室主任主査）

岡崎市で第6期中に増加が見込まれる認定者は約 2,400 人、そのうち要支援 2 から要介護 2 の認定者は約半数の 1,200 名ほど、その 1,200 名のうち、入所系を希望される方は 2 割程度の 240 人ほどと想定しております。

制度改正により、特別養護老人ホームの入所対象者は要介護 3 以上となりましたので、要支援 2 から要介護 2 の認定者が介護を受けられる入所系の受け皿は、老人保健施設、グループホーム、混合型特定施設、地域密着型特定施設となります。

岡崎市内のこれらの施設は、合計で 1,587 床ありますが、現在ほぼ満床です。

施設整備数の配分は、老人保健施設が約 45%、グループホームが約 25%、混合型特定施設が約 20%、地域密着型特定施設が約 10%と想定しておりますので、混合型特定施設における介護認定者の必要床数は約 50 床と見込んでおります。

混合型特定施設は自立の方も入居できる施設ですので、自立の方のベッド数も含めて考えますと、約 70 床の整備増が必要と考えております。

また介護保険外のサービス、いわゆるお泊りデイサービスやショートステイの長期利用など、本来の介護サービスの利用の仕方ではない利用がなされている現状を改善する必要もあります。

以上のような理由から、合計で 80 床の整備増が必要であると考えました。

### 議長（小森岡崎市医師会長）

入所を希望する方が 2 割という数字は、全国的な傾向から推定したのですか。岡崎市独自で、2 割ぐらいであろうと推定しているのですか。

### 事務局（神尾岡崎市介護サービス室主任主査）

全国的ではなくて、岡崎市においては 2 割程度ということです。

### 太田委員（特別養護老人ホームまどかの郷施設長）

要介護 3 以上となってから、ベッドが空き始めている特別養護老人ホームもあると聞いています。

それでも岡崎市内の既存施設が満床で、2,400 名もの認定者が増える見込みであれば、施設整備はやぶさかではないと思います。

しかし、これだけ介護現場の人材がいない中で、公募に応募してくる法人があるのか。人材不足でためらっている法人が多いと聞いているので、そのあたりの見通しはどうか。

それから、県が実施している待機者調べの状況は反映されているのか。

この 2 点をお尋ねしたい。

### 事務局（神尾岡崎市介護サービス室主任主査）

地域密着型の特別養護老人ホームについては、公募しても応募がないという状況が実際にあります。市内の社会福祉法人に伺うと、第一に人材不足が挙げられています。

一方、認知症対応型グループホームについては、社会福祉法人に限らず株式会社等も申し込みできるため、公募をして応募がないという状況はありません。

また、今回公募する混合型特定施設についても、問い合わせが数件ありますので、人材不足という中でもなんとか応募があると思います。

それから、直近の県の待機者調査では、岡崎市においては 900 名ほど待機者がいるという調査結果が出ています。

県で行っているため、分析まではできていませんが、岡崎市が独自に行っている毎年の待機者調査の結果と近い数字だと思っています。

岡崎市では、毎年待機者数の調査を行っており、昨年の 5 月の調査結果で待機者は 1,152 名です。これは要介護 3 以上の待機者の数で、要介護 1、2 の方も含めるともう少し多くなります。

ただ、特別養護老人ホームは申し込んでも 1、2 年は入所できないとの話もあり、予約的な申し込みがあるため、実際にすぐの入所を希望している方は 1 割から 2 割程度かと思えます。

それでも 100 名を超える方が特別養護老人ホームへの入所を待っているという状況ですので、施設整備は進めていく必要があると考えております。

### 議長（小森岡崎市医師会長）

ただいまの介護保険施設の整備計画について、承認される方は挙手をお願いします。

（挙手全員）

### （5）報告事項

ア 地域包括ケアモデル事業について

（ア）事務局説明

愛知県長医療福祉計画課地域包括ケア推進室辻田主査から、資料 3 に基づき、説明を行った。

（イ）質疑応答

### 議長（小森岡崎市医師会長）

地域包括ケアシステム構築に向けた取組状況ですが、岡崎市はどれくらい取り組んでいるのですか。

**事務局（地域包括ケア推進室辻田主査）**

岡崎市のご担当様が本日はご不在とのことですが、私のほうからアンケート結果よりお答えしてもよろしいでしょうか。

アンケートによると、岡崎市はすべて実施している 17 市町村のひとつです。

**議長（小森岡崎市医師会長）**

幸田町はどうですか。

**事務局（地域包括ケア推進室辻田主査）**

幸田町さんのアンケート結果についても同様にお答えしてもよろしいでしょうか。

②の関係機関連のネットワーク化だけ実施していないと聞いています。

実は、この関係機関のネットワーク化につきましては、地域包括ケアの 5 つの柱である医療、介護、介護予防、生活支援、住まい、の全ての関係者による会議を設置することとしており、住まいの関係者が入っていないため「○」になっていないところが多くあります。

その理由については、役所内の住宅部局との連携や、連携する機関などが多岐にわたることなどの連携先の関係や、住まい対策は低所得高齢者向けの住宅確保がメインとなるため、対策が困難であること等があると聞いています。

住まいの関係者を入れた会議は 5 4 市町村のうち 1 9 市町村しか実施できておらず、ボトルネックとなっております。

(6) 閉会 議長（小森岡崎市医師会長）